

第3回 プロセス運営委員会 (H27.12.18) の主な意見とその対応について

1. ステップ3の検討の進め方について

主な意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・1回目の情報提供もPI活動の一部なので、表現を改めた方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューズレター（号外）による1回目の情報提供もPI活動の一環であることを踏まえ、資料を修正した。

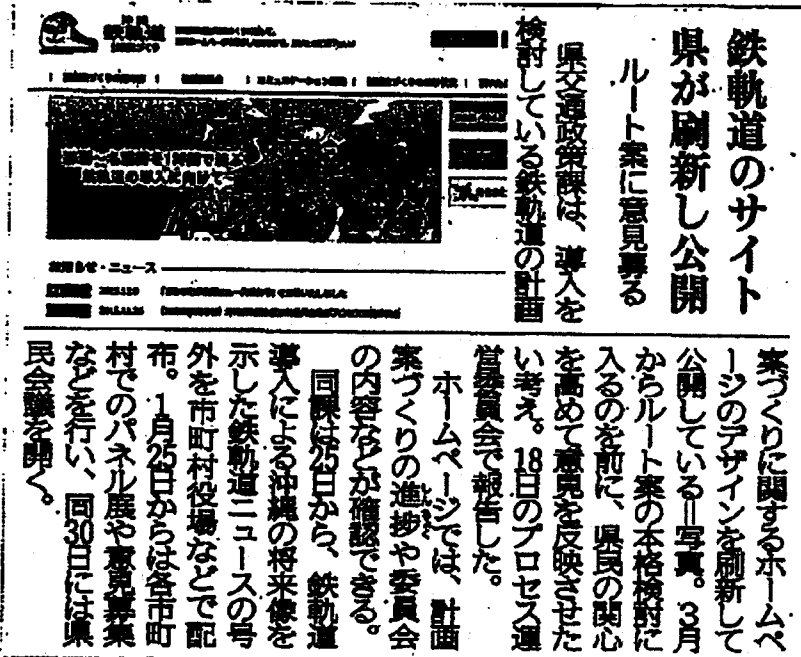
2. コミュニケーション活動（1回目）実施計画について

主な意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・オープンハウスなどのイベントを地元のマスコミなどに取材してもらう方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地でのパネル展・オープンハウス等の状況が円滑に取材できるよう、事前にスケジュールを報道機関に提供し、県民会議や市町村会議等の取材がなされ新聞報道された（別紙1）。
<ul style="list-style-type: none"> ・県民と直接対話できる出前講座を積極的に実施した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「沖縄鉄軌道計画案づくり出前講座」実施要領を策定し、出前講座に関する情報をHPへアップした（別紙2）。
<ul style="list-style-type: none"> ・パネル展示やオープンハウスの場所は、病院など体の不自由な方などにも配慮した施設を追加した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県立北部病院、県立南部医療センター・こども医療センターで追加実施した。
<ul style="list-style-type: none"> ・パネル展示の期間延長ができないか市町村役場などに依頼した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浦添市において期間延長したほか、県庁でのパネル展を1週間から約1か月に延長した。

3. 情報提供内容について

主な意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・ニューズレターに、他の自治体の事例として鉄軌道導入後の生活環境の変化などを紹介することで、読者はより理解が深まると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、他の自治体の事例から鉄軌道整備によるまちづくり効果等を整理することとしており、とりまとめ後情報提供していく。

主な意見	回答・対策方針など
<ul style="list-style-type: none"> ・今回のニューズレターから初めて見る人もいると思うので、冒頭に計画案づくりの目的を示した方が良い。 ・また、すでに鉄軌道計画案づくりの議論が進んでいることを初めて見る人にもわかるよう伝える工夫も必要。 ・ニューズレター全体をストーリー性をもたせるような工夫をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューズレター（第4号）において、トップページに計画案づくりの目的、現在の検討の進捗状況や今後の進め方を示し、初めて計画案づくりを知った方にも理解して頂けるよう紙面構成を修正した。 ・また、紙面上の配色を整理し、強調したい箇所を同一色で示すなど修正を加え、各ページの冒頭に前後のページとの関連を説明するなどニューズレター全体のストーリー性についても配慮した。
<ul style="list-style-type: none"> ・オープンハウスの実施スケジュールに関するページは、県職員が説明に伺うことを説明した方が良い。 ・質問の間3は、公共交通に求める役割だけでなく、取り組みについても確認した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員意見を踏まえたニューズレターの修正を行った。
<ul style="list-style-type: none"> ・パネルは、初めて鉄軌道計画案検討を知る人が理解しやすいよう、検討目的などを説明するパネルも用意した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルを初めてご覧になる方々へも鉄軌道計画案の検討目的等がわかるようなパネルを作成した。



**鉄軌道のサイト
県が刷新し公開**
ルート案に意見募る

県交通政策課は、導入を検討している鉄軌道の計画案づくりに関するホームページのデザインを刷新して公開している。写真。3月からルート案の本格検討に入るのを前に、県民の関心を高めるため意見を集めた。18日のプロセス運営委員会でも報告した。

ホームページでは、計画案づくりの進捗や委員会の内容などが確認できる。回覧は18日から、鉄軌道導入による沖縄の将来像を示した鉄軌道ニュースの号外を市町村役場などで配布。1月25日からは各市町村でのパネル展や意見募集などを行い、同30日には県民会議を聴く。

来年3月 複数ルート案

鉄軌道導入議論進む

鉄軌道の導入を検討する議論が三つの専門委員会に進み、12月には那覇1名議を1時間で行う格が示された。いよいよ来年3月にはルート案が複数示され、検討作業が本格化する。

鉄軌道は当初、年度内に計画案を決定する予定だったが、ルート案の設定に慎重を期すため、作業スケジュールを遅らせた。2016年中の策定を目指す。県はルート案の検討作業に入る前に、県民委員の募集を行った。

県も出前講座、県民会議などを行い、県民と情報共有を図る。また、自転車専用車かを認める。また、自転車専用車か

ら公共交通への利用促進を図るため、県も県費は3月にバスレーンを37年ぶりに延長した。朝は高野津市伊佐から那覇市久米地まで1・6キロ延長した。

4月にICカード「OKICA(オキカ)」が路線バスにも導入された。タクシーや船への拡張を議論する協議会も1月にスタートした。

長1金10・4、夕方は那覇市旭橋から浦添市牧港まで4・6キロ延長した。

40年の悲願 活性化期待

鉄軌道の導入へ 県民目線で議論

名護で県民会議

【名護】県交通政策課は 30 日、名護市の名護大で鉄軌道導入に関する県民会議の第 2 回会合を開いた。公募で集まった一般市民 24 人が、公共交通の役割などについて意見を交わした。写真。

複数案を比較する場合の「ものまじ」について、県は那覇から各地の所要時



間、事業費、便益の見直しなどを挙げた。これに対し、参加者からは「自動車保有数」「酸化炭素排出量」がどれだけ減るか、「用地買収に何年かかるか」などの質問があった。

参加者は五つのグループに分かれて 2 時間以上討論。北谷町の自宅から宮野湾市の大学に車で通う新垣リユウキさんなどは「人が多く通う大卒の近くに駅ができれば、送迎や事故も減る

と感じ」と話した。県は年内に、鉄軌道のおおよその着地点やルートを盛り込む計画案を策定する。県民会議も次回開き、意見を反映させていく。

鉄軌道導入で 市町村と会議

県、複数案を検討

【沖縄】沖縄本島への鉄軌道導入に向けた計画策定で県交通政策課は 3 日、沖縄市の中部合同庁舎で市町村会議を開催した。県は 5 月ごろまでに、交通量、施設の位置、ルート、駅、バスや LRT などの支線などの案を複数検討する方針を

説明した。出席した市町村の担当者からは「小規模の開発も踏まえて検討してほしい」との意見が出された。

自治体担当者からは送迎緩和のため那覇―豊城―糸満の計画を求める声や MIC が立地する与那原町への交通接続の問題、米軍普天間飛行場返還跡地の経路検討の有無などの質問が上がった。

鉄軌道への要望 市町村から聴取

県が全県開催

【沖縄】県交通政策課は3日、沖縄市の中部合同庁舎で第2回沖縄鉄軌道市町村会議を開いた。市町村の担当者らに、同課から計画案の検討状況などについて説明があった。市町村からは、駅位置や駅周辺整備、骨格軸に接続するフィーダー交通(支線)としてのバス網の整備などに関心が寄せられた。

宮城野市の担当者からは「普天間飛行場跡地を通るかどうかで跡地利用が変わってくる。どう通るか方向性は決まっていますのか」。豊見城も糸満の担当者からは「豊見城も糸満も、骨格軸に接続するフィーダー交通ではなく骨格軸に入れたほうがいいのでは」との要望が上がった。このほか「事業費に実現性はあるのか」「MICHAELの関連はどうか」といった質問も上がった。

鉄軌道導入向け意見交換

鉄軌道導入に向けた計画案策定のため、県交通政策課は10日、16の関係機関との意見交換会を那覇市の県南部合同庁舎で開いた。会の出席者からは「(鉄軌道導入による)交通渋滞緩和

を定量的に示してほしい」「災害時の復旧などの運営費も検討に入れてほしい」などの意見が出された。

計画案策定に向けては現在、路線のルート案などを検討する第3段階にある。

鉄軌道ルート案 県が本格検討へ

関係機関と意見交換

県交通政策課は10日、那覇市内で鉄軌道計画案の策定に向け、関係機関との意見交換会を開いた。3月末から有識者による委員会でのルート案の検討が始まるのを前に、交通事業者や経済観光団体、市民団体の代表者が意見を述べた。参加者からは好調な観光を念頭に、「空港だけではなく、クルーズ船を想定した海路との結節も検討する

べきだ」「駅から観光地や地域を結ぶフィーダー交通も重要」との意見があった。公共交通の事業者からは「既存の公共交通と相乗効果を得られるような対策が必要」として、役割分担の必要性を指摘する意見もあった。

2020年に、中城湾港マリンタウン地区に大型MICB施設が建設されることから、フィーダー交通を早期に整備する必要性も議論された。回覧は県民から募集している意見や、今回の意見交換会の議論も踏まえ、3月末の検討委員会へ複数案を提示。ルート案の本格的な検討を始める。

(別紙2) 出前講座情報の提供

沖縄鉄軌道 計画案づくり

沖縄鉄軌道計画案づくりに関して、専用ホームページを開設しております。是非ともご覧下さい！

・ サイトマップ

・ ご意見・お問い合わせ

計画案づくりの進め方 | 検討委員会 | コミュニケーション活動 | 計画案づくりの進捗状況 | 頂いたご意見の公表

県民との直接対話に向け、出前講座に関する情報をホームページのトップに設置した。

お知らせ・ニュース

資料公開	2016.3.30	第4回技術検討委員会の資料を掲載しました。
お知らせ	2016.3.22	第4回 沖縄鉄軌道技術検討委員会の開催について
鉄軌道news	2016.1.25	「おきなわ鉄軌道ニュース第4号」を掲載いたしました。

出前講座

沖縄県では、職員が県民の皆さまのもとに直接出向き、鉄軌道計画案づくりに関する取り組みについて、ご説明する「出前講座」を実施しています。

○対象

おおむね20人以上の県民の皆さまが参加する集会。ただし、営利、宗教、政治活動を目的とする場合は対象外とします。

○実施日時

平日：午前10時から午後8時まで
土日：午前10時から午後5時まで（祝日、年末年始、6月23日を除きます。）

○講座の時間

1時間から1時間半程度を予定しています（調整可）。
また、今後の参考とするため、講座終了後、簡単なアンケートを実施しますので、ご協力をお願いします。

○費用

職員派遣の費用はかかりません。

○会場

申込者でご用意下さい（会場使用料等が必要な場合は申込者で負担して下さい）。

○申込方法

講座を希望する日の1ヶ月前までに「出前講座」申込書に必要事項を記入のうえ、以下のいずれかの方法により、お申し込み下さい。

PDF 「出前講座」申込書様式（PDF:48KB）

1. 直接持参	沖縄県庁7階 交通政策課（TEL 098-866-2045）
2. 郵送	〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2 交通政策課あて
3. ファクシミリ	098-866-2448
4. e-mail	aa015500@pref.okinawa.lg.jp